

《担当者名》教授 / 安彦 善裕 yoshi-ab@ 客員教授 / 奥村 一彦 kokumura@

【概要】

口腔粘膜は皮膚と発生学に基づいて種々の共通疾患がみられる。口腔内病変を対象とする歯科領域においては、これらの疾患についての正しい知識を学ぶ。講義では皮膚科学的な面から、皮膚症候学について学び、皮膚口腔粘膜疾患を挙げ、これらの原因・症状・診断・予後・治療を系統的に述べ、歯科診療に役立てることを目的に学ぶ。なお、皮膚や口腔の疾患の理解には、臓器としての皮膚の構造・機能についての知識を学ぶ。

【学修目標】

- 皮膚と口腔粘膜の構造の類似点及び相違点を説明する。
- 皮膚と口腔粘膜の機能を説明する。
- 皮膚症候学について説明する。
- 歯科が原因となる皮膚病変について説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	・皮膚の構造と機能 ・皮膚と口腔粘膜の構造の比較	皮膚の肉眼的・組織学的構築及び各部の微細構造と皮膚の機能（はたらき）を関連づけて総合的に概説できる。 皮膚は器官（臓器）であることを概説できる。 皮膚と口腔粘膜の構造の類似点及び相違点について概説できる。	安彦 善裕
3) 4	皮膚科学	皮膚科診療の手順について概説できる。 皮疹の見方について概説できる。 皮膚疾患の構成要素について概説できる。 湿疹について概説できる。 アトピー性皮膚炎について概説できる。 皮膚科と口腔病変について概説できる。	奥村 一彦

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用
授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

- 皮膚科学（前期講義）の評価方法
- ・ [皮膚科学（前期講義）評価方法] 筆記試験又はレポート（100%）
- ・ [判定法] 筆記試験又はレポートで評価し、60点以上を合格とする。

【参考書】

山崎雙次、山本浩嗣、山根源之：歯科医のための皮膚科学 第2版 医歯薬出版 2004年

【備考】

必要に応じてプリントを配布する。

【学修の準備】

- 予習として、次回内容を参考書で確認する（30分）。
- 復習として、講義内容で疑問のあった箇所をまとめる（30分）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)と当該授業科目の関連】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を皮膚科学として身につけている。（専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力）
DP3. より安全で質の高い歯科医療を实践し社会に適應する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を皮膚科学として身につけている。（科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢）
DP4. 多職種（保健、医療、福祉、介護）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を实践できる

能力を皮膚科学として身につけている。(多職種連携能力)

【実務経験】

安彦 善裕(歯科医師)、奥村 一彦(歯科医師)

【実務経験を活かした教育内容】

両者とも歯科医師、特に口腔粘膜疾患を専門とする診療科の担当者であり、この実務経験を活かし、特に歯科治療において実際に経験することの多い皮膚口腔粘膜疾患について効果的な教育が期待できる。